

# 代表質問

12月定例会では、9つの会派が代表質問を行いました。代表質問を行った会派の名称、発言順及び発言時間は次のとおりです。

公明党(170分)、創生市川第1(80分)、創生市川第3(80分)、自由民主党(98分)、日本共産党(116分)、民進・連合・社民(98分)、清風会(116分)、創生市川第2(80分)、無所属の会(116分)



市川市スポーツセンター(国府台公園)のテニスコート

## 国府台公園の再整備

**問** 国府台スポーツセンターの再整備に当たっては、より広い範囲で地域全体を考慮して進めていく必要があると考える。今回の国府台公園再整備計画の策定における基本方針及びその実現のための手法を問う。また、市は里見公園分園のテニスコートの整備を断念したが、今後、スポーツセンター周辺におけるテニスコートの整備をどう考えているか。

**答** 当該計画は「地域の特性を踏まえ、将来を見据えた公園づくり」を基本的な考えとし、その方向性をスポーツ施設機能の向上、「公園機能の充実」及び「多機能化の推進」として、老朽化した施設の改修に加え、市民サービスの向上や機能アップを目的に取り組みしている。また、テニスコートの整備は、国府台公園再整備基本設計委託の中で、スポーツ施設機能や公園機能の充実等と併せ、配置場所や面数等、専門家等の意見を聴き決めていく。

## 創生市川第3

荒木 詩郎  
稲葉 健二

〔総括質問者〕  
松永 鉄兵

## 選挙の開票事務

**問** 平成29年11月26日に執行された市長選挙及び市議会議員補欠選挙について、開票事務が適正に行われていないのではないかと、異議申出が2件提出された。開票事務の適正性に関する市の認識、及び、異議申出への対応について問う。

**答** 開票作業では、まず全投票を候補者ごとに分類した後、点検係が他候補の投票が混入していないかを点検する。次に、票数を数える計数係と数えた票を束ねる括束係でも誤りが無いかを確認している。その後、得票計算係が候補者名と票数に誤りが無いか確認して

の出席が行政運営に資すると判断される場合は「公用」といえる。また、制服を着用しての参加や挨拶の際に職名を名乗ったり名刺を配る行為についても同様に「公務」性が判断されるが、そうでない場合にはい

パソコンに入力し、入力ミスの有無を再度確認後、選挙立会人の前に設置した投票積載台に票を並べる。開票作業は、担当係ごとに確認を行うと共に、選挙立会人にも確認してもらい承認を得ていることから、適正に行われたと考えている。異議申出が提出されたことから、投票の再開被を早期に実施したい。

## 地域集会施設

**問** 公民館や地域ふれあい館といった地域の市民が集う施設は市内に偏在しており、北国分地区及び堀之内地区にはない状況である。堀之内地区にある歴史博物館の会議室は地域住民も使

用できるが、利用日の1カ月前までに申請をする等が条件とされており、緊急の場合には使用することができない。この条件を撤廃することはできないか。また、地域集会施設の設置に当たり、空き家を活用することにつき、市の見解を問う。

**答** 歴史博物館には博物館機能として会議室を設置しているが、その目的に沿った利用を妨げない範囲で市民も利用できる。空室の有効利用は理解でき、利用日の直近でも申請を可能にする運用について、基準を含めて考えていく。また、空き家の活用については、所有者等の意向と併せ、不特定多数の人が利用する場合は建築基準法等関係法令上の課題もあると考えている。



市川市歴史博物館

## 当初予算の編成

**問** 平成29年11月26日に投票された市長選挙において、いずれの候補者も当選に必要な法定得票数に届かず、再選挙を行う必要が生じているが、その日程が決まらない状況である。この間、市長が不在となるため、30年度当初予算案は、

基本的には新規事業や既存事業の拡大を抑制した形となる見込みであるという。行財政運営への影響や市民サービスの低下等が懸念されるが、市の予算編成に関する認識について問う。

**答** 本来、当初予算案には、市民サービスの更なる充実を目的として、新規事業の実施や既存事業の拡大といった予算を盛り込んで提案することになるが、市長が

## 創生市川第1

加藤 武央  
岩井 清郎

〔総括質問者〕  
田中幸太郎

## 地方卸売市場の民営化

**問** 市川市地方卸売市場は、昭和47年4月の開設以来、生鮮食品等の流通において中核的な役割を果たしてきた。しかし、今日では、市場経営の更なる効率化や、様々なニーズへの迅速で柔軟な対応等が求められているため、市場の運営を民営化する必要性が生じている。市は、平成26年から民営化に向け準備を進め、

30年度より同市場を民営化するとの方針だが、民営化後における市と運営法人が相互に果たすべき役割についてはどのように認識しているか。

**答** 卸売市場で取引される生鮮食品の円滑な供給等は、消費生活の安定にとって非常に重要である。一方、今日の市場を取り巻く環境は、消費ニーズの多様化、小売業の大型化等様々に変化している。したがって、農業・商業施策の間を繋ぐ市場の重要な役割に鑑み、市と運営法人がそれぞれの役割を担いつつ、相互に協力していくことが大切である。今後も市は運営法人に様々な協力を求めていく。



市川市地方卸売市場・花き部の「せり」の様子